

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。  
b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。  
b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。  
a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

\*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

\*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

一 評論文(教・法・経学部) (60点)

問1 7点

(模範解答例)

A①〇1点 A②〇1点 A③〇1点

私たちは、近代人としての共通の質と固有の内面を持って生活しているが、

B①〇1点 B②〇1点 B③〇1点

ひきこもりの若者は、自己の思い通りに生きたいだけで、近代性、つまり社会性を拒否

していること。(7点)  
X〈対比〓比べること〉〇1点

【構造点】

・Xは、傍線部を、A(「私たち」のあり方)とB(「ひきこもりの若者」のあり方)を〈対比〓比べること〉することで説明する仕組みへの評価である。ここでは条件A内の要素と条件B内の要素がそれぞれ少なくとも一つ以上あれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加点。

X〈対比〓比べること〉 Aの要素+Bの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※ A、Bは条件同士において、また各条件内の要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(6点満点)

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(1点)

A 「私たちは、近代人としての共通の質と固有の内面をもって生活しているが、」(2点)

※ 傍線部を説明するための「私たち」の条件。

① 「私たちは」の要素に1点

○ 「近代人としての私たちは」、「近代的人間は、」などでも可。

× 「私たち」のニュアンスがなければ×0点。

② 「近代人としての共通の質と」の要素に1点。

- 「近代人が共有する質」と「近代人としての共通の資質と」などでも可。
- × 「近代人」「共通の質」の二成分のニュアンスがそろっていないなければ×0点。

③ 「固有の内面をもって生活しているが、」の要素に1点。

- 「固有の内面を持って生きているが、」「独自の内面を携えて暮らしているが、」などでも可。
- × 「固有の内面」「生活」の二成分のニュアンスがそろっていないなければ×0点。

B 「ひきこもりの若者は自己の思い通りに生きたいだけで、近代性、つまり社会性を拒

否していること。」(3点)

※ Aと比べられる「ひきこもりの若者」の条件。

① 「ひきこもりの若者は」の要素に1点。

- 「ひきこもっている若者は」「ひきこもり状態の若者は」などでも可。
- × 「ひきこもり」「若者」の二成分のニュアンスがそろっていないなければ×0点。

② 「自己の思い通りに生きたいだけで、」の要素に1点。

- 「自分の思うとおりに行きたいだけで、」「自分勝手に行きたいだけで、」などでも可。

③ 「近代性、つまり社会性を拒否していること。」の要素に1点。

- × 「自己の思い通り」「生きたい」の二成分のニュアンスがそろっていないなければ×0点。
- 「近代性、あるいは社会性を拒絶していること。」「近代性としての社会性を拒んでいること。」「などでも可。
- × 「近代性」「社会性」「拒否」の二成分のニュアンスがそろっていないなければ×0点。

問2 8点

(模範解答例)

A ○1点

近代的な個人は、

B ①○1点 B ②○1点

一人称としての 「私の内面」を持つが、

C ①○1点

C ②○1点

他人に見えるのは二人称、三人称としての

「社会からみた私のすがた」であり、

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 ○1点

D ○1点

Y 〈総合〓まとめること〉 ○1点

二つの異なる「私」が同時に存在していること。(8点)

【構造点】

・ Xは、条件Aを、B、Cの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明する〈逆説〓矛盾を含むこと〉の仕組みへの評価である。ここでは条件Aと、条件B、C内の要素がそれぞれ一つ以上そろっていれば、この仕組みの骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 A+Bの要素+Cの要素 ○1点

・ Yは、条件B、Cを条件Dに〈総合〓まとめること〉する組みへの評価である。ここでは条件B、C内の要素がそれぞれ一つ以上そろっており、さらに条件Dあれば、この仕組みの骨組みが成立しているとみなして1点加点。

Y 〈総合〓まとめること〉 Bの要素+Cの要素+D ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士において、また条件B、C内では要素同士においても、原則的に部分採点可能とする。(6点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した条件・要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「近代的な個人は、」(1点)

※ 傍線部を説明するための主体明示の条件。

○ 「近代的な個人の在り方とは」、「近代的個人というものは」などでも可。

× 「近代的」「個人」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

**B 「一人称としての「私の内面」を持つが、」(2点)**

※ Aを説明する一方の条件。

① 「一人称としての」の要素に1点。

○ 「一人称である」「一人称と呼ばれる」などでも可。

× 「一人称」のニュアンスがなければ×0点。

② 『私の内面』を持つが、「」の要素に1点。

○ 「内面としての『私』を持つが、「」内面的な『私』を有するが、「」などでも可。

× 『私の内面』『持つ』の二成分のニュアンスのそろっていないければ×0点。

**C 「他人に見えるのは一人称、三人称としての「社会からみた私のすがた」であり、」(2点)**

※ Aを説明する、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「他人に見えるのは一人称、三人称としての」の要素に1点。

○ 「他人から見えるのは、あなた、彼、彼女としての」「他人が把握するのは、二人称、三人称である」などでも可。

× 「他人に見える」「二人称、三人称」の二成分のニュアンスがなければ×0点。

② 『社会からみた私のすがた』であり、「」の要素に1点。

○ 『まわりからみた私のすがた』であり、「『他人から見た私のすがた』であって、「」などでも可。

× 「社会から見た」「私のすがた」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

**D 「二つの異なる『私』が同時に存在していること。」(1点)**

※ B、Cをまとめて結論づける条件。

○ 「二つの矛盾をはらんだ『私』が同居していること。」「二つの反発しあう『私』が共存していること。」などでも可。

× 「二つの異なる『私』『同時に存在』の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

問3 8点

(模範解答例)

A①○1点  
A②○1点  
A③○1点  
学校で教育・訓練するのは、  
近代の理性的、合理的な人間の姿である  
「社会的な個

人」の要素だが、

B①○1点

B②○1点

それは「自分は自分」だけでは  
生きられないと教えることであり、

C①○1点

C②○1点

子どもに不安定さ、自己懐疑を持たせて  
社会に送り出すことになるから。

X (分析Ⅱ分けること) ○1点 (8点)

【構造点】

・Xは、条件Aを、条件B、Cの〈因果関係〉にある〈矛盾〉しない二条件に〈分析Ⅱ分けること〉して説明する仕組みへの評価である。ここでは、条件A、B、C内の要素がそれぞれ一つ以上あれば、この仕組みの骨組みは成立していると見なし1点加算。

X (分析Ⅱ分けること) Aの要素+Bの要素+Cの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また各条件内の要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(7点満点)

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(1点)

A 「学校で教育・訓練するのは、近代の理性的、合理的な人間の姿である『社会的な個人』の要素だが、」(3点)

※ 傍線部の理由説明をするための話題提示の条件。

① 「学校で教育・訓練するのは、」の要素に1点。

○ 「学校で子どもが教育・訓練されるのは、」 「学校での教育と訓練の中身は、」 などでも可。

× 「学校」「教育・訓練」の二成分のニュアンスそろっていないければ×0点。

② 「近代の理性的、合理的な人間の姿である」の要素に1点。

- 「近代の理性と合理性に基づく人間の在り方である」「近代の合理主義的な人間の存在様式である、」などでも可。
- × 「近代」「理性的、合理的」「人間の姿」の三成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。
- ③ 『社会的な個人』の要素だが、「」の要素に1点。
- 『『社会的な個人』の側面だが、「」社会的個人の一面だが、「」などでも可。
- × 『『社会的な個人』「要素」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。
- B 「それは『自分は自分』だけでは生きられないと教えることであり、「」(2点)
- ※ Aが内包する〈因果関係〉の〈因〉の条件。
- ① 「それは『自分は自分』だけでは」の要素に1点。
- 「それは『内的な自己』だけでは」「それがそう思っている自分』だけでは」「などでも可。
- × 『『自分は自分』だけでは」のニュアンスがはいっていないと×0点。
- ② 「生きられないと教えることであり、「」要素に1点。
- 「生きていけないことを教えることであり、「」生存不可能であることを教えることであり、「」などでも可。
- × 「生きられない」「教える」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。
- C 「子どもに不安定さ、自己懷疑を持たせて社会に送り出すことになるから。」(2点)
- ※ Aが内包する〈因果関係〉の〈果〉の条件。
- ① 「子どもに不安定さ、自己懷疑を持たせて」の要素に1点。
- 「子供を不安定にし、自己を疑わせて」「子供を不安にさせ、自分に自信をなくさせて」「などでも可。
- × 「子ども」「不安定さ」「自己懷疑」の三成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。
- ② 「社会に送り出すことになるから。」(1点)
- 「近代社会で生きさせることになるから。」「社会の中に投げ込むことになるからから。」「などでも可。
- × 「社会に送り出す」のニュアンスがなければ×0点。

問4 10点

(模範解答例)

B①〇1点

B②〇1点

「内的な自己」は 自己の主観で構成されているが、

A〇1点

実は近代的個人の

C①〇1点

C②〇1点

もう一方の要素である「社会的な個人」も、客観的に「正しい」ものではなく、

C③〇1点

「私」に対する他人や外部の評価、位置づけを意識し取り入れて判断する、

X〈分析Ⅱ分けること〉〇1点

C④〇1点

Y〈総合Ⅱまとめること〉〇1点

「私」の主観によって構成されていること。

Z〈分析Ⅱ分けること〉〇1点(10点)

【構造点】

・ Xは、C①を、C②、C③の〈矛盾〉しない〈not+but〉の二条件—例えば〈男じゃないよ、女だよ〉という場合に、〈not〉という否定の条件が入ることで、〈not〉と〈but〉の二条件からは〈矛盾〉が排除される—に〈分析Ⅱ分けること〉として説明する仕組みへの評価である。この場合、C①、C②、C③がそろっていれば、この仕組みが成立していると判断して1点加算。《この構造点は細かいので解答説には書き込まれていない。》

X〈分析Ⅱ分けること〉 C①+C②+C③ 〇1点

・ Yは、C②、C③を、C④に〈総合Ⅱまとめること〉する仕組みへの評価である。この場合、C②、C③、C④がそろっていれば、この仕組みが成立していると判断して1点加算。《この仕組みも細かいので解答説には書き込まれていない。》

Y〈総合Ⅱまとめること〉 C②+C③+C④ 〇1点

・ Zは、条件Aを、一応〈矛盾〉しない条件Bと条件Cに〈分析Ⅱ分けること〉して説明する仕組みへの評価である。ここでは、条件Aと、条件B、C内の要素がそれぞれ一つ以上入っていれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加算。

Z〈分析Ⅱ分けること〉 A+Bの要素+Cの要素 〇1点

◎ 採点のポイント



※ A、B、Cは条件同士において、またB、C内では要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(7点満点)

※ ただし、【構造点】X・Y・Zは、右に示した、条件、要素の組み合わせの意味内容が成立している場合にのみ加点する。(3点満点)

B 『内的な自己』は自己の主観で構成されているが、「(2点)

※ 後述のAを説明する一方の条件。

① 『内的な自己』は「の要素に1点。

○ 『私の内面』は「自己の内面は」などでも可。

× 『内的な自己』のニュアンスがなければ×0点。

② 「自己の主観で構成されているが、「の要素に1点。

○ 「自己の主観で成り立っているが、「自分の主観で構築されているが」などでも可。

× 「自己の主観」「構成」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

A 「実は近代的個人の」(1点)

※ 傍線部を説明するための主体明示の条件。

○ 「近代の個人の」「実は近代的人間の」などでも可。

× 「近代的」「個人」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

C 「もう一方の要素である『社会的な個人』も客観的に『正しい』ものではなく、『私』に対する他人や外部の評価、位置づけを意識し取り入れて判断する、『私』の主観によって構成されていること。」

※ Aを説明するもう一方の条件。

① 「もう一方の要素である『社会的な個人』も」の要素に1点。

○ 「他方の側面である『社会的な個人』も」「もう半面を構成する『社会的な個人』も」などでも可。

× 「もう一方の要素」「『社会的な個人』」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

② 「客観的に『正しい』ものではなく、「の要素に1点。

○ 「客観的に『正しい』というわけではなく、「客観的な正しさを保障されているわけではなく」などでも可。

× 「客観的」「『正しい』の否定」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

③ 『私』に対する他人や外部の評価、位置づけを意識し取り入れて判断する、「の要素に1点。

○ 『私』に対する周囲の評価、位置づけを取り入れて判断する「『私』への外からの評価、定位を考慮に入れて判断する、」などでも可。

× 『私』に対する他人や外部の評価、位置づけ「取り入れて判断」二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

④ 『私』の主観によって構成されていること。「の要素に1点。

○ 『私』の主観が構築しているものだけということ。「『私』の主観に拠っているものだけということ。」などでも可。

× 『私の主観』『構成』の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

問5 9点

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

近代社会において、「外部に表示した私」は、

B①〇1点

B②〇1点

学校の成績や会社での実績などのように、人同士を比べる基準として構想されたものと

もいえ、

C〇1点

X〈分析〓分けること〉〇1点

必然的に個人を比較や競争に巻き込むため、

D①〇1点

D②〇1点

それを嫌う人は 生きていく場所を奪われるということ。

Y〈総合〓まとめること〉〇1点(9点)

【構造点】

・Xは、条件Aを、B、Cの〈因果関係〉にある〈矛盾〉しない二条件に〈分析〓分けること〉して説明する仕組みへの評価である。ここでは、A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あり、さらに条件Cがそろっていれば、この仕組みの骨組みは成立している判断し1点加算。

X〈分析〓分けること〉 Aの要素+Bの要素+C 〇1点

・Yは、条件B、Cを、条件Dに〈総合〓まとめること〉して結論づける仕組みへの評価である。ここでは、Bの要素、条件C、Dの要素がそろっていれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなし1点加算。

Y〈総合〓まとめること〉 Bの要素+C+Dの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また条件A、B、D内においては要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(7点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(2点満点)

- A 「近代社会において、「外部に表示した私」は、」(2点)
- ※ 傍線部を説明するための〈主体明示〉の条件。
- ① 「近代社会において、」の要素に1点。
- 「近代の社会では、」近代的社会の場で、「などでも可。」
- × 「近代社会」のニュアンスがなければ×0点。
- ② 『外部に表示した私』は、「の要素に1点。」
- 「周囲に表出された『私』は、」社会に露出した『私』は、「などでも可。」
- × 『外部に表示した』『私』の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。
- B 「学校の成績や会社での実績などのように人同士を比べる基準として構想されたともいえ、」(2点)
- ※ Aを説明する〈因果関係〉の〈因〉の条件。
- ① 「学校の成績や会社での実績などのように」の要素に1点。
- 「学校や企業での成績や実績のように」「学校の成績や会社での業績がそうであるように」などでも可。
- × 「学校の成績」「会社での実績」のような具体的な成分のニュアンスがなければ×0点。
- ② 「人同士を比べる基準として構想されたともいえ、」の要素に1点。
- 「人と人とを比較する基準のありようとして構想されたものともいえ、」「人間同士を比較するための基準として設計されたともいえ、」などでも可。
- × 「人同士を比べる基準」「構想」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。
- C 「必然的に個人を比較や競争に巻き込むため、」(1点)
- ※ Aを説明する〈因果関係〉の〈果〉の条件。
- 「結果的に人間を比較や競争に追い込むため、」「結局個人を比較や競争から逃れられないようにするため、」などでも可。
- × 「個人」「比較や競争」「巻き込む」の三成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。
- D 「それを嫌う人は生きていく場所を奪われるということ。」(2点)
- ※ B、Cの〈因果関係〉の二条件をまとめて結論づける条件。
- ① 「それを嫌う人は」の要素に1点。
- 「それ(＝比較や競争)が嫌いな人は」「それに背を向ける人は」などでも可。
- × 「それ(＝比較や競争)」「嫌う人」の二成分のニュアンスがそろっていないと

×0点。

② 「生きていく場所を奪われるということ。」の要素に1点。

○ 「生活の場を確保することが難しくなるということ。」「引きこもる方向に向かわざるをえなくなることを。」

問6 9点

(模範解答例)

A①〇1点 A②〇1点

「私」自体は 「私は私である」という確信に支えられた「内的な自己」だが、

B①〇1点

ヨーロッパ中世でそれを守護していた「神」に代って、

B②〇1点

近代において「社会的な個人」が構成され、

X〈分析〓分けること〉〇1点 Y〈逆説〓矛盾を含むこと〉〇1点

C①〇1点 C②〇1点

私たち近代人は 両者を使い分けて生きているということ。

Z〈総合〓まとめること〉〇1点(9点)

【構造点】

・Xは、「内的な自己」を守護するものの変遷過程をB①、B②の二段階に〈分析〓分けること〉として説明する仕組みへの評価である。B①とB②がそろっていればこの仕組みは成立しているとし1点加算。

《この構造点は細かいので解答解説には書き込まれていない。》

X〈分析〓分けること〉 B①+B② 〇1点

・Yは、傍線部を、A、Bの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明する〈逆説〓矛盾を含むこと〉の仕組みへの評価である。ここでは、A、Bの要素がそれぞれ一つ以上そろっていれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなし1点加算。

Y〈逆説〓矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素 〇1点

・Zは、〈矛盾〉を孕むAとBの二条件を、Cに〈総合〓まとめること〉として結論づける仕組みへの評価である。ここでは、A、B、Cの要素がそれぞれ一つ以上そろっていれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加算。

Z〈総合〓まとめること〉 Aの要素+Bの要素+Cの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士においても、各条件内の要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(6点満点)

※ ただし、【構造点】X・Y・Zは、右に示した各要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(3点満点)

A 『私』本体は『私は私である』という確信に支えられた『内的な自己』だが、「(2点)

※ 傍線部を説明する一方の条件。

① 『私』本体は「」の要素に1点。

○ 『私』本体の確信の核は「『私』それ自身は」などでも可。

× 『私』本体」のニュアンスがなければ×0点。

② 『私は私である』という確信に支えられた『内的な自己』だが、「」の要素に1点。

○ 「ありのままの自己であることを確信する『内的な自己』だが、「」などでも可。自身であることを疑わない『内的な自己』だが、「」などでも可。

× 『私は私である』という確信「『内的な自己』」の二成分がそろっていないければ×0点。

B 「ヨーロッパ中世でそれを守護していた『神』に代って、近代において『社会的な個人』が構成され、「(2点)

※ 傍線部を説明する、Aとは〈矛盾〉を孕む他方の条件。

① 「ヨーロッパ中世でそれを守護していた『神』に代って、「」の要素に1点。

○ 「中世ヨーロッパでそれを守護していた『神』を退けて、「」ヨーロッパ中世におけるその守護者であった『神』の代わりに、「」などでも可。

× 「ヨーロッパ中世」「守護」「神」に代わって「」の三成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

② 「近代において「社会的な個人」が構成され、「」の要素に1点。

○ 「近代になって『社会的な個人』が構築され、「」近代に『社会的な個人』が生まれ「出され、「」などでも可。

× 「近代」「社会的な個人」「構成」の三成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

C 「私たち近代人は両者を使い分けて生きているということ。」(2点)

※ 〈矛盾〉を孕む二条件A、Bをまとめて結論づける条件。

① 「私たち近代人は」の要素に1点。

- 「私たちは」「近代人は」などでも可。
- × 「私たち（≠近代人）」のニュアンスがなければ×0点。
- ② 「両者を使い分けて生きているということ。」「の要素に1点。
- 「状況によっていずれかに依拠しながら生きているということ。」「両者のどちらかに拠りながらその時々を生きていること。」「などでも可。
- × 「両者を使い分けて」「生きている」の二成分がそろっていないと×0点。

問7 9点

(模範解答例)

A①○1点

学校へ行って勉強し、近代的な知や技能を受容できるように

A②○1点

「私」を近代的、社会的

に変容させて現れる「社会的な個人」と

B①○1点

B②○1点

「内的な自己」との相互作用で、

C○1点

X〈弁証法Ⅱ創造すること〉○1点

「近代的な個人」が形成されるが、

D○1点

この過程が苦痛を伴うにもかかわらず、

E○1点

日本ではほとんどの子どもたちが進んで従事しているから。

Y〈逆説Ⅱ矛盾を含むこと〉○1点(9点)

【構造点】

・Xは、条件A、Bの〈相互作用(≠衝突)〉を〈止揚〉して、Cを〈創造〉する〈弁証法Ⅱ創造すること〉の仕組みへの評価である。傍線部を説明する前提条件となる。ここでは、A、Bの要素がそれぞれ一つ以上入っており、それに条件Cがそろっていれば、この仕組みの骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈弁証法Ⅱ創造すること〉 Aの要素+Bの要素+C ○1点

・Yは、〈A+B+C〉の〈弁証法〉の具体的な様態を、D、Eの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明する、〈逆説Ⅱ矛盾を含むこと〉の仕組みへの評価である。ここでは、条件A、Bの要素、あるいは条件Cのうちどれかがあり、その上で条件D、Eがそろっていれば、この仕組みの骨組みは成立している

とみなして1点加点。

Y〈逆説⇨矛盾を含むこと〉 Aの要素、Bの要素、Cの内の少なくとも一つ+D

+E ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、D、Eは条件同士において、また条件A、B内では要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(7点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「学校へ行って勉強し、近代的な知や技能を受容できるように『私』を近代的、社会的に変容させて現れる『社会的な個人』と」(2点)

※ 傍線部を説明するための〈弁証法〉の一方の条件(⇨契機)。

① 「学校へ行って勉強し、近代的な知や技能を受容できるように」の要素に1点。

○ 「学校で勉強して、近代的な教養や技術を身につけられるように」「学校に行つて学び、近代的な知識や技能を習得できるように」などでも可。

× 「学校へ行って勉強」「近代的な知や技能の受容」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

② 『私』を近代的、社会的に変容させて現れる『社会的な個人』と、「の要素に1点。

○ 『私』の近代的、社会的変容によって現れる『社会的な個人』と、「『私』を社会的、近代的に訓練することで出現する『社会的な個人』と」などでも可。

× 『私』『社会的、近代的に変容』『社会的な個人』の三成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

B 『内的な自己』との相互作用で、「(2点)

※ 傍線部を説明するための〈弁証法〉の他方の条件(⇨契機)。Aとは〈矛盾(⇨衝突)する他方の条件(⇨契機)。

① 『内的な自己』との「の要素に1点。

※ 厳密に言うと、これが〈弁証法〉の他方の条件(⇨契機)そのもの。

× 『内的な自己』の成分がなければ×0点。

② 「相互作用で、「の要素に1点。

※ 厳密に言うと、〈弁証法〉の〈矛盾(⇨衝突)する二契機を〈止揚〉する要素。

○ 「矛盾を止揚して」「絡み合いから」などでも可。

× 「相互作用(⇨矛盾の止揚)」の成分がなければ×0点。



C 『近代的な個人』が形成されるが、「(1点)

※ 〈弁証法〉の創造された次元。第三の条件(非契機)。

○ 『近代的な個人』が創出されるが、「近代の個人が登場するが、」などでも可。

× 『近代的な個人』「形成」二成分のニュアンスがそろっていないなければ×0点。

D 「この過程が苦痛を伴うにもかかわらず、」(1点)

※ 〈弁証法〉の現実的な様態を表す一方の条件。

○ 「このプロセスが苦労を要するにもかかわらず、」この過程が産みの苦しみを伴うのに、「」などでも可。

× 「この過程(＝弁証法)」「苦痛」の二成分のニュアンスがそろっていないなければ×0点。

E 「日本ではほとんどの子どもたちが進んで従事しているから。」(1点)

※ 〈弁証法〉の現実的な様態を表す、Dとは〈矛盾〉する他方の条件。

○ 「日本ではたいていの子どもたちが意欲的に取り組んでいるから。」「日本では子供たちのほとんどがこれに励んでいるから。」などでも可。

× 「日本のほとんどの子どもたち」「進んで従事」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

二 現代文（評論）採点基準（合計60点）

問1 10点

（模範解答例）

B①〇1点	B②〇1点	B③〇1点	B④〇1点
主観と客観、	自分と他人、	人間と自然を分離する	近代思想と対比的な、
A〇1点			
東洋の、			
C①〇1点	C②〇1点	C③〇1点	
主客を融合的なものとし、	自他をつながった存在と理解し、	人間を自然の内にあ	
る一部とみなす			
X（分析Ⅱ分けること）〇1点			
D〇〇点	Y（総合Ⅱまとめること）〇1点		
思想。（10点）			

【構造点】

・Xは、条件A、正しくは「東洋の思想」を、〈notP～butQ〉の〈矛盾〉しない二条件―例えば〈男じゃ  
ないよ、女だよ〉という具合に、〈not（じゃないよ）が入ること〉で、P、Q間に発生しうる〈矛盾〉  
は排除される―に〈分析Ⅱ分けること〉として説明する仕組みへの評価である。ここでは条件Aと、条件  
B、C内の要素がそれぞれ一つ以上そろっていればこの仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点  
加算。

X（分析Ⅱ分けること） A+Bの要素+Cの要素 〇1点

・Yは、B、C二条件の内容を、Dに〈総合Ⅱまとめること〉する仕組みへの評価である。ここでは、条  
件B、C内の要素がそれぞれ一つ以上あり、条件Dがあれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみ  
なし1点加算。

Y（総合Ⅱ分けること） Bの要素+Cの要素+D 〇1点

※ A、B、Cは条件同士においても、また条件B、C内の要素同士においても原則的に  
部分採点可能とする。（8点満点）

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した条件、要素を組み合わせた意味内容が成立し  
ている場合にのみ加算する。（2点満点）

B 「主観と客観、自分と他人、人間と自然を分離する近代思想と対比的な、」(4点)

※ 後述のA, 正しくは「東洋思想」を説明する(notP)の条件。

① 「主観と客観、」の要素に1点。

○ 「主体と客体、」「主客、」などでも可。

× 「主観」「客観」の二成分のニュアンスがそろっていないなければ×0点

② 「自分と他人、」の要素に1点。

○ 「自己と他者、」「自己、」などでも可。

× 「自分」「他人」の二成分のニュアンスがそろっていないなければ×0点。

③ 「人間と自然を分離する」の要素に1点。

○ 「人間を自然から切り離す」「人間と自然を切断する」などでも可。

× 「人間と自然」「分離」の二成分のニュアンスがそろっていないなければ×0点。

④ 「近代思想と対比的な、」の要素に1点。

○ 「近代思想と正反対の」「近代思想と対照的な」などでも可。

× 「近代思想の否定」のニュアンスが入っていないければ×0点。

A 「東洋の、」(1点)

※ 傍線部を説明するための話題提示の条件。本来は「東洋の思想」のことであるが、解答末尾に「思想」が入るのでこの形となった。

○ 「東洋における」「東洋的な」などでも可。

× 「東洋」のニュアンスが入っていないければ×0点。

C 「主客を融合的なものとし、自己をつなごうとした存在と理解し、人間を自然の内にある一部とみなす」(3点)

※ A, 正しくは「東洋思想」を説明する(notQ)の条件。

① 「主客を融合的なものとし、」の要素に1点。

○ 「主観と客観を融合したものとし、」「主客を合一したものとし、」などでも可。

× 「主客」「融合的」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

② 「自己をつなごうとした存在と理解し、」の要素に1点。

○ 「自己と他人を分かれた存在とするのではなく、」「自己を一体の存在とみなし、」などでも可。

× 「自己」「つなごうとした存在」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

③ 「人間を自然の内にある一部とみなす」の要素に1点。

○ 「人間を自然の一部とする」「人間を自然に含まれる部分とする」などでも可。

× 「人間」「自然の内にある一部」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×

0点。

D 「思想。」(加点なし)

- ※ 条件B、Cをまとめる条件であり、解答に必須であるが、ここでは問題文中に含まれている条件とみなして、書き込まれていても加点はしない。ただし、この条件で締めていないと、設問の注文に反するというところで減点。
- × 「思想」で解答を締めていないと1点減点。

問2 9点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

A③○1点

我々によるものの分別は

客観的なものではなく、

主観による分け方にすぎず、

B①○1点

B②○1点

分別の枠組みの向こう側には

切れ目のない世界があつて、

B③○1点

それは存在するという意味で有といえるが、

B④○1点

同時に区別の指標がないという意味では無だともいえるから。

X〈逆説〓矛盾を含むこと〉○1点 Y〈分析〓分けること〉○1点 (9点)

【構造点】

・Xは、条件B内で、〈B①+B②〉の「切れ目のない世界」を、B③、B④の〈矛盾〉する二要素に引き裂いて説明する仕組みへの評価である。〈B①、B②〉の内の少なくとも一つの要素があり、B③、B④の要素がそろっていれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加点。

X〈逆説〓矛盾を含むこと〉 〈B①、B②〉の内の少なくとも一つ+B③+B④ ○  
1点

・Yは、傍線部を、条件Aと条件Bの二段階に〈分析〓分けること〉として説明する仕組みへの評価である。  
ここでは、条件Aと条件Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加点。

Y〈分析〓分けること〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、Bは条件同士で、また各条件内の要素同士でも原則的に部分採点可能である。(7

点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「我々によるものの分別は客観的なものではなく、主観による分け方にすぎず、」(3点)

※ 傍線部を説明するための第一段階の条件。

① 「我々によるものの分別は」の要素に1点。

○ 「我々はいろいろものを分別しているが、」我々の行う分別は」などでも可。

× 「我々」「ものの分別」の二成分がそろっていないければ×0点。

② 「客観的なものではなく、」の要素に1点。

○ 「客観的に分かれているものではなく、」客観的な事実ではなく、」などでも可。

× 「客観的」のニュアンスがなければ×0点。

③ 「主観による分け方にすぎず、」の要素に1点。

○ 「恣意的な分け方にすぎず、」人間が分けるのであり、」などでも可。

× 「主観」「分け方」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

B 「分別の枠組みの向こう側には切れ目のない世界があつて、それは存在するという意味で有といえるが、同時に区別の指標がないという意味では無だともいえるから。」(4点)

※ 傍線部を説明する第二段階の、本体ともいえる条件。

① 「分別の枠組みの向こう側には」の要素に1点。

○ 「分別の世界の向こう側には」「分別の枠組みの奥には」などでも可。

× 「分別の枠組み」「向こう側」「二成分のニュアンスそろっていないければ×0点。

② 「切れ目のない世界があつて、」の要素に1点。

○ 「分かれていない世界があつて、」「無分別の世界があつて、」などでも可。

× 「切れ目のない世界」のニュアンスがなければ×0点。

③ 「それは存在するという意味で有といえるが、」の要素に1点。

○ 「それは存在するという点では有とみなせるが、」「それが存在するという限りでは有ということもできるが、」などでも可。

× 「それ(＝切れ目のない世界)」「存在するという意味で有」の二成分がそろっていないければ×0点。

④ 「同時に区別の指標がない」という意味では無だともいえるから。」の要素に1点。

○ 「他方で区別する指標がない」という点で無であるともいえるから。」「分別のための指標がない」という意味で無とも判断しうるから。」などでも可。

× 「区別の指標がない」「無」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

問3 12点

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

A③〇1点

A④〇1点

主客非分離、

自他非分離、

人間を含む自然界の一体性が

世界の実相なのだが、

B〇1点

その無分別に留まることなく、

C①〇1点

C②〇1点

C③〇1点

無分別の世界から分別の世界をみて、

分別が相対的な方便にすぎず、

実在ではないこ

X〈分析〓分けること〉〇1点

とを理解して、

D①〇1点

D②〇1点

その時代、その地域の言語的な分節化に縛られずに

自由自在に思考をめぐらす世界。

Y〈総合〓まとめること〉〇1点(12点)

【構造点】

・Xは、傍線部を説明するために、ひとまず条件Aに関して、B、Cの〈notP〜butQ〉の構文にはまっている〈矛盾〉しない二要素に〈分析〓分けること〉として説明する仕組みへの評価である。ここでは、条件Aの要素が一つ以上、条件B、それに条件Cの要素が一つ以上あれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加点。

X〈分析〓分けること〉

Aの要素+B+Cの要素 〇1点

・Yは、傍線部の説明を完成するために、条件B、CをDに〈総合〓まとめること〉して結論づける仕組みへの評価である。ここでは、条件Bと、条件C、D内の要素がそれぞれ一つ以上あれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加点。

Y〈総合〓まとめること〉

B+Cの要素+Dの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士において、また条件A、C、D内の要素同士においても原則的に部分採点可能である。(10点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「主客非分離、自他非分離、人間を含む自然界の一体性が世界の実相なのだが、」(4点)

※ 傍線部を説明するための前提条件。

① 「主客非分離、」の要素に1点。

○ 「主客を分離しないこと」「主客分離の否認」などでも可。

× 「主客」「非分離」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

② 「自他非分離、」の要素に1点。

○ 「自他を分離しないこと」「自他分離の否認」などでも可。

× 「自他」「非分離」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

③ 「人間を含む自然界の一体性が」の要素に1点。

○ 「人間と自然の一体性が」「人間を含む生命の一体性が」などでも可。

× 「人間を含む自然界(≠人間と自然)」「一体性」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

④ 「世界の実相なのだが、」の要素に1点。

○ 「世界の実際の有様なのだが、」「世界の本当の姿なのだが、」などでも可。

× 「世界」「実相」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

B 「その無分別に留まることなく、」(1点)

※ Aを説明する〈notP〉の条件。

○ 「その無分別に留まっているのでは意味がなく、」「そこに留まっていたのではただの無分別でしかなく、」などでも可。

× 「無分別」「留まらない」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

C 「無分別の世界から分別の世界をみて、分別が相対的な方便にすぎず、実在ではない

ことを理解して、」(3点)

※ Aを説明する〈butQ〉の条件。

① 「無分別の世界から分別の世界をみて、」の要素に1点。

○ 「分別なき世界から分別のある世界を見て、」「分別の世界を無分別の世界から注視して、」などでも可。

× 「無分別の世界」「分別の世界」「見る」の三成分のニュアンスがそろっていないければ×0点

② 「分別が相対的な方便にすぎず、」の要素に1点。

○ 「分別が多数ある分別の中の一つに過ぎず、」「分別が絶対的な分節化だとはいえず、」などでも可。

× 「分別」「相対的な方便」の二成分のニュアンスがそろっていないならば×0点。  
③ 「実在ではないことを理解して、」の要素に1点。

○ 「そのままの形で実在するものではないことを分かって、」「実際に存在するものではないことを理解して、」などでも可。

× 「実在ではない」「理解」の二成分のニュアンスがそろっていないならば×0点。

D 「その時代、その地域の言語的な分節化に縛られずに自由自在に思考をめぐらす世界。」  
(2点)

※ B、Cをまとめて結論づける条件。

① 「その時代、その地域の言語的な分節化に縛られずに」の要素に1点。

○ 「時間、空間的に制限された言語的な分節化に束縛されずに」「時代と地域の分節構造、言語的な分節化に縛られないで」などでも可。

× 「時代と地域」「言語的分節化」「縛られない」の三成分のニュアンスがそろっていないならば×0点。

② 「自由自在に思考をめぐらす世界。」の要素に1点。

○ 「融通無碍に考えることができる世界。」「自由自在に思考を展開できる世界。」などでも可。

× 「自由自在」「思考を巡らす」「世界」の三成分ニュアンスがそろっていないならば×0点。



問4 9点

(模範解答例)

A ○1点

日本では

B ○1点

B ○1点

慈悲心を持って苦しんでいる人に共感し、多くの土地が個人の所有ではなく入会地とし

B ○1点

て使われ、特に水稲耕作は共同作業をしなければならないものだし、

X (分析Ⅱ分けること) ○1点

C ○1点

C ○1点

また仏教でも 自と他の区別がない状態こそが 最高の体験とされてきたから。(9点)

Y (分析Ⅱ分けること) ○1点

【構造点】

・Xは、傍線部の理由説明をするために、まずはAの場における〈消極的〉な説明から入るが、それをさらに〈主観的〉なB①と、〈客観的〉な〈B②+B③〉に〈分析Ⅱ分けること〉して説明する仕組みへの評価である。ここではB①と、B②、B③の少なくともどちらか一方の要素がそろっていれば、この仕組みの骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X (分析Ⅱ分けること) B①+〈B②、B③〉の少なくともどちらか一方 ○1点

・Yは、傍線部の理由を、条件Bの〈消極的〉内容と、条件Cの〈積極的〉内容に〈分析Ⅱ分けること〉して説明する仕組みへの評価である。ここでは条件Aと、条件B、C内の要素がそれぞれ少なくとも一つ以上あれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点追加。

Y (分析Ⅱ分けること) A+Bの要素+Cの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また条件B、C内では要素同士においても原則的に部分採点可能。(7点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(2点満点)

A 「日本では」(1点)

※ 傍線部の理由説明をするための〈場〉の条件。

× 「日本」のニュアンスがなければ×0点。

B 「慈悲心を持つて苦しんでいる人に共感し、多くの土地が個人の所有ではなく入会地として使われ、特に水稲耕作は共同作業をしなければならないものだし、」(3点)

※ 傍線部の理由説明をするための、Aに関する〈消極的な〉条件。

① 「慈悲心を持つて苦しんでいる人に共感し、」の要素に1点。

※ B内の〈主観的〉な要素。

○ 「慈悲心をもって困っている人を助けようとし、」「慈悲心持つてお互いに助け合い、」などでも可。

× 「慈悲心」「助ける」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

② 「多くの土地が個人の所有ではなく入会地として使われ、」の要素に1点。

※ B内の〈客観的〉な要素その1。

○ 「土地の多くが入会地としてみんなで一緒に使われていたし、」「土地の多くが個人所有という意識なく入会地として使われ、」などでも可。

× 「多くの土地」「個人所有の否定」「入会地」の三成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

③ 「特に水稲耕作は共同作業をしなければならないものだし、」の要素に1点。

※ B内の〈客観的〉な要素その2。

○ 「とりわけ水田耕作はお互いに助け合わなければならないし、」「特にコメ作りは共同作業を必須のものとするし、」などでも可。

× 「水稲耕作」「共同作業の必要性」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

C 「また仏教でも自と他の区別がない状態こそが最高の体験とされてきたから。」(3点)

※ 傍線部の理由説明をするための、Aに関する〈積極的〉な条件。

① 「また仏教でも」の要素に1点。

○ 「さらに仏教でも」「また仏教の場でも」などでも可。

× 「仏教」のニュアンスがなければ×0点。

② 「自と他の区別がない状態こそが」の要素に1点。

○ 「自他の区別がなくなることこそが」「自他の合一した状態こそが」などでも可。

× 「自と他」「区別がない」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

③ 「最高の体験とされてきたから。」の要素に1点。

○ 「最高の境地とされてきたから。」「悟りの境地とされてきたから。」などでも可。

× 「最高の体験」のニュアンスがなければ×0点。

問5 9点

(模範解答例)

A ○1点

東洋のみならず、古代社会にも共通する、

B ○1点

身体と心が繋がっていると考え、

C ①○1点

C ②○1点

共同体を創るのも 自己と他者という個の集まりではなく、

D ①○1点

D ②○1点

自然を外部から支配、独占するのではなく、 自分と繋がった自然の内部で生息している

X (分析) 分けること (○1点)

という

E ○1点 Y (総合) まとめること (○1点)

人間の姿。(9点)

【構造点】

・ Xは、傍線部を説明するために、前提条件のAについて、B、C、Dの〈矛盾〉しない三条件に〈分析〉分けることとして説明する仕組みへの評価である。ここでは、条件A、Bがあり、また条件C、D内の要素がそれぞれ一つ以上入っていれば、この仕組みが成立しているとみなして1点加算。

X (分析) 分けること A + B + Cの要素 + Dの要素 ○1点

・ Yは、傍線部を説明するために、B、C、Dの三条件をEに〈総合〉まとめることとする仕組みへの評価である。ここでは条件B、条件C、Dの要素がそれぞれ少なくとも一つ以上、加えて条件Eがあれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加算。

Y (総合) まとめること B + Cの要素 + Dの要素 + E ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、D、Eは条件同士において、また条件C、D内では要素同士においても原則的に部分採点可能である。(7点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(2点満点)

A 「東洋のみならず、古代社会にも共通する、」(1点)

※ 傍線部を説明するための前提条件。

○ 「東洋だけでなく、古代社会全般に共通する」「東洋に限らず、古代社会一般に

通ずる」などでも可。

× 「東洋だけではない」「古代社会にも共通」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

**B 「身体と心は繋がっていると考え、」(1点)**

※ Aの内容を構成する二つ目の条件。

○ 「身体と心を分けては考えず、」「主観と客観を分かれた存在とは考えず、」などでも可。

× 「身体と心」「繋がっている」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

**C 「共同体を創るのも自己と他者という個の集まりではなく、」(2点)**

※ Aの内容を構成する二つ目の条件。

**① 「共同体を創るのも」の要素に1点。**

○ 「共同体を構成するのも」「共同体を生み出すのも」などでも可。

× 「共同体」「創る」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

**② 「自己と他者という個の集まりではなく、」の要素に1点。**

○ 「自我という個の集まりではなく、」「自己と他人というような個の集合ではなく」などでも可。

× 「自己と他者(非自我)」「個の集まりの否定」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

**D 「自然を外部から支配、独占するのではなく、自分と繋がった自然の内部で生息しているという」(2点)**

※ Aの内容を構成する三つ目の条件。

**① 「自然を外部から支配、独占するのではなく、」の要素に1点。**

○ 「自然の外にいてそこから自然を排他的に支配するのではなく、」「自分をそこから切り離して自然を独占的に支配するのではなく、」などでも可。

× 「自然」「外部から支配、独占」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

**② 「自分と繋がった自然の内部で生息しているという」の要素に1点。**

○ 「自然との有機的な連関を保ちつつ生息しているという」「自然と一体化しながら生を営んでいるという」などでも可。

× 「自分と自然のつながり」「生息」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

E 「人間の姿。」(1点)

※ B、C、Dをまとめる条件。

○ 「人の姿。」「人間存在の姿。」などでも可。

× 「人間」「姿」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

問6 11点

(模範解答例)

A ○1点

近代社会が、

B ○1点

心を身体から切り離して

B ②○1点

一人歩きをさせ、

C ①○1点

C ②○1点

自我を共同体から排除して、

孤独な個が他者を排除するように仕向け、

D ①○1点

D ②○1点

X (分析||分けること) ○1点

人間を自然から排除して

有機的な結びつきを失わせて、

E ①○1点

E ②○1点

肥大した自我が

自らを確認できない状況に追いやるという方向。

Y (総合||まとめること) ○1点 (11点)

【構造点】

・ Xは、傍線部「そんな方向」を説明するために、前提条件Aについて、B、C、Dの(矛盾)しない三条件に(分析||分けること)して説明する仕組みへの評価である。ここでは、条件Aがあり、また条件B、C、D内の要素がそれぞれ一つ以上入っていれば、この仕組みの骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X (分析||分けること) A+Bの要素+Cの要素+Dの要素 ○1点

・ Yは、B、C、Dの三条件をEに(総合||まとめること)する仕組みへの評価である。ここでは条件B、C、D、Eの要素がそれぞれ少なくとも一つ以上あれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加算。

Y (総合||まとめること) Bの要素+Cの要素+Dの要素+Eの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、D、Eは条件同士において、また条件B、C、D、E内では要素同士においても原則的に部分採点可能である。(9点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「近代社会が、」(1点)

※ 「そんな方向」を説明するための前提条件。

○ 「近代の社会が、」「我々の社会で」などでも可。

× 「近代社会」のニュアンスがなければ×0点。

B 「心を身体から切り離して一人歩きをさせ、」(2点)

※ Aの内容を構成する二つ目の条件。

① 「心を身体から切り離して」の要素に1点。

○ 「身体から心が切り離され」「心が身体から分離されて」などでも可。

× 「心」「身体から切り離す」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

② 「一人歩きをさせ、」の要素に1点。

○ 「孤独に歩ませ」「孤立を強いて」などでも可。

× 「一人歩き」「させる(させられる)」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

C 「自我を共同体から排除して、孤独な個が他者を排除するように仕向け、」(2点)

※ Aの内容を構成する二つ目の条件。

① 「自我を共同体から排除して、」の要素に1点。

○ 「共同体から自我を追い出して、」「共同体から自我が分離させられて、」などでも可。

× 「共同体」「自我の排除」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

② 「孤独な個が他者を排除するように仕向け、」の要素に1点。

○ 「排除されて孤独となった自我が他者を排除するように促し、」「孤独な個同士が排除しあうように仕向け、」などでも可。

× 「孤独な個」「他者排除」「仕向けられる」の三成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

D 「人間を自然から排除して有機的な結びつきを失わせて、」(2点)

- ※ Aの内容を構成する三つ目の条件。
- ① 「人間を自然から排除して」の要素に1点。
- 「人間を自然から切り離して」「人間を自然から追い出して」などでも可。
- × 「人間」「自然から排除」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。
- ② 「有機的な結びつきを失わせて、」の要素に1点。
- 「有機的な連関を断ち切って」「生き生きとした結びつきを喪失させて、」などでも可。
- × 「有機的な結びつき」「失わせる」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

E 「肥大した自我が自らを確認できない状況に追いやるという方向。」(2点)

※ B、C、Dをまとめて結論つける条件。

- ① 「肥大した自我」の要素に1点。
- 「膨張した自我」「膨れ上がった自我」などでも可。
- × 「肥大した」「自我」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。
- ② 「自らを確認できない状況に追いやるという方向。」の要素に1点。
- 「本当の自分というものを見つけられない状況に追い込むという方向。」「自己確認のできない苦しみの中に追いやるという方向。」などでも可。
- × 「自らを確認できない」「追いやるという方向」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

三 古文 随所師説 (40点)

問1

(ア) アどこにイ理解できないところが、ウあろうか、イヤ全て理解できる。 【3点】

ア—①点 「ア」

イ—①点 「理解できる・わかる」 + 打消 完答

ウ—①点 反語「くだろうか(いやくない↑なくても可)」

(イ) アあてにしイにくいもの、ウである 【3点】

ア—①点 あてにする・たよりにする

イ—①点 しくにくい・しくがたい・くするのが難しい

ウ—①点 断定「だ・である」

(ウ) ア自然とイ歌として成立するもの、ウである 【3点】

ア—①点 副詞「ひとりでに・自然と」 ×一人(↑名詞として)

イ—①点 「むかふ」は文脈から「歌として成立する・歌になる・歌ができる・歌が詠める」など。

ウ—①点 断定の助動詞「だ・である」

(エ) アどろしてイすばらしい歌ができないことが、ウあろうか、イヤ、ウきむ。 【3点】

ア—①点 「どろして」

イ—①点 歌が「できる」+打消「ない」 完答

ウ—①点 反語「くだろうか(いやくない↑なくても可)」



問2

①アその時代の誰が聞いても理解できる言葉を用いるのがよいのに、イ今では理解しがたい万葉時代の言葉をあえて用いる「万葉ぶり」はウ愚かしいという批判。【5点】

アー②点 本来あるべき歌：誰もが理解できる言葉を使う

イー②点 批判の対象（現状）：現代では理解できない万葉言葉を使う（「万葉ぶり」）

ウー①点 批判：愚かしい・ばかげている・くだらない など

②ア日常の平易な言葉を用いずに歌を詠もうとしても、結局良い歌ができることはいという批判。【4点】

アー②点 歌を詠むのに平語（日常の平易な語）以外を用いること。

イー②点 良い歌ができない・無駄である・成果は出ない など

問3

ク活用の形容詞「多し」連用形／カ行四段動詞「なりゆく」連体形／断定の助動詞「なり」終止形 【3点】

\*活用の種類、終止形、活用形の三つが完答で、単語ごとに①点。

問4

ア名利を求めめる心は、イ理性では捨て去るべき心情だとわかっていても、ウ簡単には頭から離れず、捨て去ることができないという状況。 【4点】

アー②点 「名利心を離るる」にあたる語↓名譽や利益を求めめる心（名利心）を捨てること。

イー①点 「打てども」にあたる語↓捨てようと思っても・努力しても・意識しても など可。

ウー①点 「去らぬ」にあたる語↓捨てることができない など

問5

ア聞く人にすぐ意味がわかるような、今の時代の日常用いる平易な言葉で詠み、イ名譽と利益を求めめる心を捨て去ることを心がけ、ウ真心中で歌を詠み続けること。【6点】

アー②点。今の時代の理解できる言葉で詠むこと。

イー②点。名利心を捨てること。

ウー②点。真心中で歌を詠むこと。

問6

紀貫之・イ 【各③点】

四 漢文(40点)

問1 6点

(模範解答例)

未レ知下所三以取ニ書画一法上也

\*解答例のみ正解。

\*ただし、返り点(レ点、一二三点、上下点)がすべて正しいが、「書画」にハ  
イフンを入れているもの(「未レ知下所三以取ニ書画一法上也」として  
いるもの)は5点減点(1点)

問2 7点

(模範解答例)

A ○1点

まして、

B ○1点

その人の描いた文字や絵画が

C ○1点

技巧のすぐれたものであれば、

D ○1点

それを手に入れた者は、

E ○1点

なおさら

F ○2点

尊敬の念を抱くであろう。

各加点要素の加点の条件

【A・B・C・D・E・Fに関して部分採点を行う】

A ○1点(「況」の解釈)

※「まして」のみ正解。

B ○1点(「其字画之」の解釈)

※「其」は、「その」と訳せていれば、「人の描いた」の有無は問わない。

※「字画」は、「字」と「絵」のことだと表現できておらず、「字」のみ・

「画(絵画)」のみ・「字画」のようにしているものはB×(B〓0点)

※「之」は「の」「が」のどちらかであれば可。

C ○1点(「工」の解釈)

※「工」の意味は、「技術が」「技巧が」の有無を問わず、「すぐれている」「上手い」の意味に取れていればよい。「巧み」も可とする。

※「〜であれば」は、「〜の場合」「〜ものは」なども可。

D ○1点(省略部の補い1)

※「それ」は「書画」「書と絵」も可。

※「手に入れた者(人)」は「得る者(人)」「見る者(人)」なども可。

E ○1点(省略部の補い2)

※「いっそう」「ますます」「当然」も可。

※また、この部分の解釈を文末に持って来て「尊敬の念を抱くのも当然だ」のようにしても可。

F ○2点(省略部の補い3)

※「応に敬を生ずべし」の部分を読んで補ってあげればよい。

※ただし、「尊敬」「敬意」という語を使わなくても、「書画(またはその作者)を高く評価する」意が補えていれば可とする(例「すばらしいと思うだろう」「ほめたたえるだろう」「大切にするだろう」など)。

※推量表現(「だろう・くにちがいない)の有無は不問とする。

※ただし、「くだらう」を「当然すべきだ」としているものはF1点減点。

問3 8点

(模範解答例)

A ○4点

もし作者が尊敬すべき立派な人物でないならば、

B ○2点

単に技巧のすぐれているだけの絵画に、

C ○2点

大切にされる価値はないということ。

各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う】

Aの要素(「苟非其人」の内容) 4点

※打消を含む仮定表現(「もしくはないならば・もしくなかったら・かりにもくなかったら・くはないならば・くなかったら」など)またはそれに準ずる表現(「くはない場合は」など)になっていない場合はA全体×(A  
|| 0点)

※ただし「苟」の訳(もしも・かりにも)の有無は問わない。

※「其人」||「立派な人」「尊敬すべき人」(同意可)という意味であることが表現できていない場合はAマイナス3点。

※「字画の」作者が「の補いがない場合はAマイナス1点。「立派な人物による作品でないならば」のような書き方でも可。

Bの要素(特一画工所能)の内容) 2点

※「単に」「ただ」「だけ」の有無は不問とする。

※「技巧のすぐれた書画(作品)」に「の意味であれば可。

※「(一人の)絵画の技術の巧みな人の作品(書画・描いたもの・作ったもの)」のような表現でも可。ただし、「所能」の内容が具体的になく、「できること」と直訳しているものはB×(B||0点)。

※「技巧・技術」の要素がなく、単に「すぐれた書画(絵画・作品)」としてしているものはB1点減点。

※「技巧にすぐれた作品」でなく、「技巧にすぐれた人(絵描き・書家)」としてしているものはB×(B||0点)。

Cの要素(「何足貴也」の内容)

※「貴」||「貴ぶ・大切にする・大事にする・高く評価する・重視する」

の意であることが表現できていないものはC1点減点。

※「何ぞく足らんや」⇨「くする価値はない・くする必要はない」の意味であると表現できていないものはC1点減点。「くに足りない」「くに足りない」も許容する。

※反語表現を直訳して、「どうして貴ぶ必要があるか、いや、必要はないということ」としているものはC1点減点。

※疑問表現のみで、「どうして貴ぶ必要があるかということ」のようにしているものはC×(C⇨0点)。

※「何ぞく足らんや」を、「くてはならない(禁止)」「くすることはできない(不可能)」で訳しているものはC1点減点。

#### 問4 8点

(模範解答例)

A ○1点

節操のない人物であった

B ○1点

蔡京の書が軽んじられ、

C ○1点

立派な人物であった

D ○1点

蘇軾の画が高く評価されるように、

書画は、

E ○1点

技巧の優劣によってではなく、

F ○2点

作者の人格の優劣によって

G ○1点

評価を定めるということ。

各加点要素の加点の条件

【A・B・C・D・E・F・Gに関して部分採点を行う】

Aの要素 1点

※蔡京が人間・政治家として低く評価される人物であったことが表現できていればよい。「つまらぬ人物であった」「悪人であった」「悪政を行った」「宋を滅亡させた」などすべて可。

Bの要素 1点

※蔡京の書(作品)の評価が低い(人気がない)ことが表現できていればよい。文中(注)の表現を用い、「忌み嫌われ」としてもよい。

Cの要素 1点

※蘇軾が人間・政治家として立派な(高く評価される)人物であったことが表現できていればよい。「皇帝におもねらず断固として意見を貫いた」なども可。

Dの要素 1点

※蘇軾の画(作品)が高く評価されている(人気がある)ことが表現できていればよい。文中(注)の表現を用い、「皆が先を争って買おうとする」などとしても可。

Eの要素 「其の人を以て」の内容(一) 1点

※「技巧(の優劣)が重要なのでない」「技巧よりも」の要素が表現できていればよい。

Fの要素 「其の人を以て」の内容(二) 2点

※「作者の人間(政治家・官僚)としての優劣によって」「作者が立派な人物(政治家・官僚)であるかどうかによって」の「作者の人格(人間性)によって」の要素が表現できていればよい。

Gの要素 「軽重す」の解釈 1点

※「評価する」「評価(価値)を定める」の意で解釈できていればよい。

※「書画の評価では、技巧の優劣より作者の人間としての優劣が重要だ」のような書き方でもよい。

※「軽んじたり重んじたりする」「軽んじられたり重んじられたりする」も許容する。

問5 6点

(模範解答例)

まさによのげんをもつてこれをもとむべし。

A まさにくべし

B よのげんをもつて

C これをもとむ

各加点要素の加点の条件

※「すべてひらがなで」という条件に違反しているものは全体×。

【A・B・Cに関して部分採点を行う】

A ○4点(再読文字「応」の読み方)

※解答例のみ○。

B ○1点(「以予言而」の読み方)

※「つ」は「つ」も可。

※「よのげんをもつてして」も可。

※他は一箇所でも間違っていればB×(B||0点)

C ○1点(「求之」の読み方)

※解答例のみ○。「これをもとめる」はC×(C||0点)



問6	a	b	c	d	e	※
各1点×5＝計5点	のみ	およそ	おのず(づ)から	すなわ(は)ち	やや	解答例のみ○。
	1点	1点	1点	1点	1点	